

第 3 部 環境配慮指針

<「第3部 環境配慮指針」について>

環境配慮指針は、第2部「施策の展開」で定めた目指す都市像の実現に向け、市民・事業者、市がそれぞれ日常の生活や企業活動等を実践する際に、環境に配慮すべき事項について示すものです。

ここでは、市民・事業者・市の3つに分けて、第2部に示した各主体の取り組みの具体例を指針として示します。

(指針の見方)

1 環境教育と協働の推進(19ページ関連)

(1) 環境問題に関心を持ち、自らのライフスタイルを見つめなおします。

- 新聞やテレビなどを通して環境に関する話題に関心を持ちます。
- 学校などで学んだ環境に関する知識を、家族や友人に伝え、共有します。
- 毎月の電気・ガス・水道などの検針票などを確認し、各家庭でのエネルギー使用量を把握します。

①：第2部で紹介する施策を示しています。

②：第2部内の項目3「8年後のまちの姿の実現に向けた市民・事業者の取り組み」に記載されている項目です。

③：②の項目にかかる具体的な取組例を記載しています。

第1節 市民における環境配慮

1 環境教育と協働の推進（19 ページ関連）

（１）環境問題に関心を持ち、自らのライフスタイルを見つめなおします。
<ul style="list-style-type: none">● 新聞やテレビなどを通して環境に関する話題に関心を持ちます。● 学校などで学んだ環境に関する知識を、家族や友人に伝え、共有します。● 毎月の電気・ガス・水道などの検針票などを確認し、各家庭でのエネルギー使用量を把握します。
（２）インターネットや新聞、雑誌などを通じた情報収集を行うとともに、自身の環境活動についても広く情報発信を行います。
<ul style="list-style-type: none">● 市民のための環境総合サイト「エコやろてば！」や、市のホームページ、SNSなどの情報通信技術、また市報や各団体の広報誌等を活用することで、積極的に情報収集を行います。● インターネットや広報誌等を活用し、自身の所属する市民団体の環境活動等について、広く広報を行います。
（３）環境学習会や講演会等へ積極的に参加します。
<ul style="list-style-type: none">● 「環境フェア」などの環境関連イベントに積極的に参加し、市民団体や企業などが実践している環境活動等について学びます。● 市で募集する環境関連の啓発ポスターの募集に積極的に応募します。● 各公民館や市民団体などが主催する環境関連のイベント等に参加します。
（４）日常生活において環境行動を実践します。
<ul style="list-style-type: none">● 家庭でのエネルギーの使い方を見直し、家族全員で省エネに取り組みます。● 資源回収への協力及びごみの減量化に取り組みます。● 住宅の屋根や壁面、庭を利用した緑化を推進します。● 水質汚濁、騒音等による環境負荷の低減を図ります。
（５）地域で実践される環境保全活動などへ積極的に参加します。
<ul style="list-style-type: none">● 地域の清掃活動や環境を保全する活動に積極的に参加します。● 環境活動を実践している市民団体等について知り、共通の志を持つ市民団体が実施するイベントなどに参加します。
（６）地球規模の環境問題に関して関心を持ちます。
<ul style="list-style-type: none">● 渡り鳥が飛来する潟について関心を持ち、保護活動に参加します。● 市民探鳥会等に積極的に参加します。● 市域の枠を超えた環境保全の必要性について、市民向け講座を通じて学びます。

2 低炭素社会の創造（26 ページ関連）

（１）本市の持つ田園環境に関心を持ち、保全活動などへ積極的に参加します。	
<ul style="list-style-type: none">● 市や市民団体等が主催する田園環境の保全活動に積極的に参加します。● 田園環境を活用したイベント等に積極的に参加します。● 「アグリパーク」や「いくとびあ食花」などの体験施設を活用します。	
（２）太陽光発電システムなどの再生可能エネルギー設備や、省エネ機器の買換えを進めます。	
<ul style="list-style-type: none">● 太陽光発電システムの導入を進めます。● 省エネ設備の設置や省エネ性能の高い家電製品への買い替えを進めます。	
（３）低燃費車への乗り換えや、公共交通機関の利用など、移動手段の低炭素化に取り組みます。	
<ul style="list-style-type: none">● 近くへの移動は、徒歩か自転車にします。● 通勤・通学・行楽などの外出時は、電車、バスなどの公共交通機関を利用します。● 自家用車を運転する場合は、エコドライブ（駐停車時のアイドリング・ストップ、急発進・空ぶかしの抑制、エンジnbrakeの有効利用、法定速度による定速走行、タイヤの空気圧の適正化をはじめとする点検・整備等）を実践します。● 無駄な荷物を積んだまま運転しません。	
（４）省エネ行動を、身近なところから積極的に実践します。	
<ul style="list-style-type: none">● 不要な照明は、こまめに消します。● 照明は、可能な限りLED照明に切り替えます。● テレビを長時間見ないときなど、電化製品を使わないときは主電源を切ります。● 冷蔵庫の詰め込みすぎをやめ、ドアの開閉もなるべく少なくします。● エアコンや掃除機のフィルターは、こまめに清掃します。● 近傍階への移動の際は、エレベーターの利用を控え、階段を利用します。● 冷暖房を使う際は、冷やしすぎや暖めすぎに注意します。● お風呂・食器洗いなどの際には、水をこまめに止めるなど、節水を心がけます。	

3 循環型社会の創造（34 ページ関連）

（１）一人ひとりがごみの排出者としての自覚と責任を持ち、ごみを出さないライフスタイルに見直します。
<ul style="list-style-type: none">● 計画的な買い物を心がけ、できるだけごみを出さないようにします。● 日頃からマイバッグやマイボトルを持ち、不要なレジ袋や使い捨て容器をもらわないようにします。● できるだけ包装の少ない商品を選びます。● まだ利用できるものは友人に譲ったり、リユースショップに出したりするようにします。● 料理は残さず食べ食品ロスの削減に努めます。● 生ごみの水切りをしたり、ライフスタイルに合った生ごみの資源化を実践したりします。
（２）分別収集のマナーの遵守や各種講座等への参加など、ごみの減量化・資源化に向けた取り組みに協力します。
<ul style="list-style-type: none">● 市やNPO 団体が行う各種講座に積極的に参加します。● ごみ分別や資源に関する市からの広報を理解し、3R に対する意識や分別マナーが向上します。● 小売店などが行っている資源物の店頭回収を積極的に活用します。
（３）地域の集団資源回収や一斉清掃等の美化活動に参加します。
<ul style="list-style-type: none">● 自治会や町内会が行う集団資源回収に協力します。● 地域一斉清掃や環境美化活動に積極的に参加します。● ごみのポイ捨てや路上喫煙禁止区域での喫煙を行いません。

4 生物多様性の保全（40 ページ関連）

（１）地域で開催される自然観察会や自然体験イベントなどに積極的に参加します。
<ul style="list-style-type: none">● 様々な生きものが自然の中でどのように生活しているのか観察します。● 人と自然環境の共存方法を学びます。● 観察会やイベントを通して、ふるさとの自然を大切に思う気持ちを育てます。
（２）外来生物や自然保護に関する正しい知識を身に付け、これらに配慮した生活を送ります。
<ul style="list-style-type: none">● ペットなど、飼っている生き物を野外に放さないようにします。● 特定外来生物の意味や、正しい対処方法への理解を深めます。● 外来生物駆除のイベントに参加します。
（３）自然環境を大切に思う子どもたちを育てます。
<ul style="list-style-type: none">● 自然体験などのイベントに積極的に親子で参加します。● 環境学習などを通じて、本市の豊かな自然環境を理解し郷土愛を育みます。

5 快適な生活環境の創造（44 ページ関連）

（１）家庭からの生活排水による水質汚濁などを防ぎます。
<ul style="list-style-type: none">● 公共下水道が整備された地域では、下水道へ速やかに接続します。● 公設浄化槽制度の活用を進めます。● 単独浄化槽から高度処理型の合併浄化槽への転換を進めます。● 浄化槽の適正な維持管理と清掃を行い、法定検査を受けます。● 台所からの排水に気を付けます。● 水の節約を心がけます。
（２）生活騒音の抑制に努めます。
<ul style="list-style-type: none">● 自動車の空ぶかしや不要なアイドリングを行いません。● オーディオ、楽器、空調機器、給湯器、換気扇などの使用にあたっては、生活騒音の発生に配慮します。● 犬や猫といったペットの鳴き声に配慮します。
（３）新潟市の景観に関心を持ち、周辺の景観と調和した住宅等をつくります。
<ul style="list-style-type: none">● 市や市民団体が開催する講座等に積極的に参加し、新潟市固有の景観について理解を深めます。● 良好な景観形成を目的とする組織づくりに取り組みます。● 周辺の景観と調和した住宅等をつくります。
（４）新潟市の歴史や文化に関心を持ちます。
<ul style="list-style-type: none">● 歴史や文化財に関する講座や展覧会に積極的に参加して、郷土に対する理解を深めます。● 国・県・市が行う歴史・文化遺産を保護する取組みに協力します。● 歴史・文化遺産を受け継ぎ、活用していくことを通して、郷土の歴史・文化に対する関心と理解を深めます。● 指定文化財に関わる人たちは、その文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、大切に保存するとともに、できるだけ公開して活用にあつめます。
（５）災害発生時の被害を防ぐために、「自助」の力を高めるとともに、地域防災の取り組みなどに参加します。
<ul style="list-style-type: none">● 地域の防災活動に積極的に参加し、役割を担います。● 活動で得た知識や技能などを地域と共有します。● 高齢者世帯をはじめ災害時の対応が困難な人たちやその家族に対する支援を、地域と協力して行います。
（６）ユニバーサルデザインに配慮した行動を心がけます。
<ul style="list-style-type: none">● ユニバーサルデザインに関する情報を集め、理解を深めます。● ユニバーサルデザインの視点に立って物事をとらえ、問題があれば相手方に対して提案します。

第2節 事業者における環境配慮

1 環境教育と協働の推進（19 ページ関連）

（１）環境保全に関する研修会を実施します。
● 従業員に対し、環境意識を高める研修プログラムを作成して実施します。
（２）地域で実践される環境保全活動などへ積極的に参加します。
● 地域の清掃活動や環境を保全する活動に積極的に参加します。 ● 環境活動を実践している市民団体等について知り、共通の志を持つ市民団体と連携して環境保全活動を実践します。
（３）環境に関して情報収集を行うとともに、自社の環境行動について広く情報発信します。
● 市民のための環境総合サイト「エコやろてば！」や、市のホームページ、SNSなどの情報通信技術、また市報や各団体の広報誌等を活用することで、積極的に情報収集を行います。 ● 先進的な再生エネ・省エネ設備を導入し、市民に紹介する見学会を開催します。 ● 自社で行う清掃活動などの環境保全活動などについて、ホームページやCSRレポートなどを通じて広く情報発信を行います。
（４）グローバル化する環境問題に対応するため、技術協力などを通じた域外貢献を図ります。
● 自社の技術を世界中に広め、環境保全活動に貢献します。

2 低炭素社会の創造（26 ページ関連）

（１）環境保全に配慮した経営を実施します。
<ul style="list-style-type: none">● クールビズやウォームビズを励行します。● 業務量の適正化，事務処理効率の向上により，夜間残業の削減を図ります。● 設備機器の適切なメンテナンスを行います。● 使用者，利用者およびテナントなどへ，環境配慮行動の協力要請や啓発を行います。● 一斉消灯を行うライトダウンキャンペーンなどの社会啓発活動に協力します。
（２）再生可能エネルギー設備や省エネ設備への買換えなどを進めます。
<ul style="list-style-type: none">● 白熱灯から蛍光灯，LED 照明への転換やインバータ照明器具の導入を進めます。● 太陽光や風力発電，太陽熱など自然エネルギーの導入を図ります。● 節水機器や雨水利用設備などを導入します。● ビルを新築・改築するときは，断熱化や屋上緑化，壁面緑化等を行います。● コージェネレーションシステムやヒートポンプ等高効率機器の導入を進めます。
（３）社用車への低燃費車の採用や，物流の効率化など，人・物の移動にかかる低炭素化に取り組みます。
<ul style="list-style-type: none">● 通勤には，徒歩や自転車，公共交通機関を利用します。● 新潟エコ通勤チャレンジサイトを利用します。● 社用車の運転時には，エコドライブ（駐停車時のアイドリング・ストップ，急発進・空ぶかしの抑制，エンジnbrakeの有効利用，法定速度による定速走行，タイヤの空気圧の適正化をはじめとする点検・整備等）を実践します。● 効率的な運転ルートを検討します。● 小回りの利く自転車や荷車も活用します。● ハイブリッド車など，低公害車や低燃費車を購入・導入します。● 適正な自動車台数を保有し，不必要な車両を保有しないようにします。
（４）事業所内において効率的な機器の運用を図るなど，省エネ行動を実践します。
<ul style="list-style-type: none">● ISO14001 やエコアクション 21 などの環境マネジメントシステムを構築し，推進します。● ESCO 事業，省エネ診断等の導入により，LCC（ライフサイクルコスト），LCC02（ライフサイクル CO₂）を踏まえ，高効率なヒートポンプ空調・給湯など省エネルギー・省 CO₂化を進めます。● グリーン購入基本原則に基づき，物品等の調達の際には環境負荷の低減に配慮した製品を選択します。● 地元産の製品を利用するとともに，製品の取り扱いを進めます。

3 循環型社会の創造（34 ページ関連）

（１）生産・流通・販売等の段階で、商品やサービスがごみを生まないような工夫をします。
● 省資源化を意識した製品設計やサービスの提供に努めます。
（２）環境に配慮した企業理念を掲げ、可能な範囲で地域貢献に積極的に取り組みます。
● 地域における清掃活動や環境保全活動に積極的に参加します。
（３）自己処理責任のもと、ごみ排出者としての自覚・責任をもち、ごみを出さない、また、出たごみをできるだけ資源化する事業活動を計画的に推進します。
● 拡大生産者責任の考え方に基づき、自社の製品が廃棄物になった物の資源化と適正処理に努めます。
● 事業所から出るごみと資源の分別を徹底し、資源の循環利用に努めます。
（４）ごみ減量化・適正処理に向けた様々な取り組みに協力します。
● 事業系ごみの排出ルールを遵守します。
● 市が行う排出指導や資源化施策に協力します。

4 自然環境の保全 (41 ページ関連)

(1) 社会貢献活動を通じて、里潟や田園、里山などでの生物多様性の保全に貢献します。
<ul style="list-style-type: none">● CSR 活動などで、環境保全活動などに取り組みます。● 様々な環境保全活動を協力、応援します。
(2) 保有している土地や工場・事業所などで、生物多様性の保全を行います。
<ul style="list-style-type: none">● 外来生物の駆除を積極的に行います。● 希少種に配慮した維持管理に努めます。
(3) 生物多様性の保全に配慮した原材料の確保や商品の調達・製造・販売を行います。
<ul style="list-style-type: none">● 地産地消の取り組みを推進し、環境の負荷を出来る限り軽減します。● 地域の農業を地域の消費者が支え、農地の生物多様性を保全します。
(4) 環境保全活動や里潟、里山づくりなどによる生物多様性に配慮した取り組みを実践します。
<ul style="list-style-type: none">● 農薬の使用回数を減らし、農地の生物多様性保全を図ります。● 里潟のクリーン作戦などに参加します。

5 快適な生活環境の創造（45 ページ関連）

（１）環境関連法令を遵守し環境保全対策を徹底します。	
<ul style="list-style-type: none">● 工場や事業場からの排出ガスの適正な処理に努めます。● 光化学スモッグ注意報等が発令された場合は、緊急時対策に協力します。● アスベスト除去等は、法に基づく作業基準を遵守し、飛散防止に努めます。● 廃棄物焼却炉は適正に使用及び維持管理します。● 悪臭発生の防止を図るため、設備・製品・原材料の適正管理に努めます。● 周辺に配慮した照明に努めます。● 工場や事業場からの排出水の抑制や適正な処理に努めます。● 工場や事業場排水の公共下水道への接続を進めます。● 雨水貯留槽の設置や、舗装面における透水性アスファルト舗装の採用などにより雨水流出を抑制するとともに有効利用に努めます。● 地下水の使用を抑制し、適正利用に努めます。● 有害化学物質の排出削減及び抑制のため自主管理を徹底します。● 有害物質の大気・河川等への漏えいや油の流出など、事故時に迅速に対応できる体制を運用します。● 土壤汚染が確認された場合は法令に基づき迅速に対応及び措置します。● 事業活動に伴う騒音・振動について低減を図ります。● 自動車・新幹線・航空機の交通騒音について管理者はその低減に努めます。● 農業では農薬の使用抑制、及び環境影響の少ない農薬に転換を図ります。● 農業では適正な施肥に努めます。● 農業では稲わらや籾殻等の焼却防止に努めます。	
（２）事業実施前における環境影響評価を実施します。	
<ul style="list-style-type: none">● 市の環境影響評価条例に基づき、一定規模の開発行為を実施する際には、環境影響評価を実施します。● 小規模の開発行為の際も、開発行為による周辺環境への影響について十分調査し、影響が最小限となるよう配慮します。	
（３）事業所の外観や屋外広告物など、景観に配慮します。	
<ul style="list-style-type: none">● 事業所の外観や屋外広告物には、落ち着いた色彩を用います。● 事業所の敷地内には緑地を設け、緑の多い景観づくりに努めます。	
（４）歴史・文化遺産の保全に配慮します。	
<ul style="list-style-type: none">● 遺跡の発見・周知の埋蔵文化財包蔵地における発掘・埋蔵文化財調査のための発掘に際して、必要な届け出を行います。	
（５）災害発生時に迅速かつ的確に対処できるよう準備を進めます。	
<ul style="list-style-type: none">● 災害発生時における緊急連絡体制や避難経路などをあらかじめ整理し、災害発生時においても迅速な対応ができるよう準備します。	

（６）ユニバーサルデザインの視点に立った事業活動に努めます。

- 開発行為，情報提供などあらゆる機会においてユニバーサルデザインの考え方に配慮します。

第3節 市における環境配慮

市は、自らが大規模な事業者の一つであり、市が行う事務・事業の実施によって環境に大きな影響を及ぼしている中で、まず市が率先して環境保全行動に取り組むことが求められます。

この環境保全行動をより一層、着実に推進するための手法として、自らの力で国際規格であるISO14001に適合した環境マネジメントシステムを確立し、運用するとともに、地球温暖化対策推進法に基づく市地球温暖化対策率先実行計画の推進などにより、本市のすべての事務・事業ならびに所属・機関及び職員が、環境負荷の低減を実践していきます。

具体的な施策の展開については、「第2部 施策の展開」で述べています。